



◀ 3歳～小学校入学前の幼児とその保護者を対象に、森や川で、季節感を取り入れた野外活動を行う『もりのようちえん』



▲ 3歳未満の乳幼児とその保護者を対象に、自然体験を通して子育てを支援する『森のサロン』

▲ ふおれすと鉾山流里山づくりボランティア『チカタビレンジャー』

▲ 小学生を対象に、鉾山町の調査・野外活動を行う『ながぐつレンジャー』

レンジャー」、大人も含めて行っている『ふおれすと鉾山流里山づくりボランティア』『チカタビレンジャー』など、どのプログラムも、多くの方に自然とふれる機会をもってもらいながら、子どもや保護者、ふおれすと鉾山、モモンガくらぶ、子育てにかかわるボランティアの皆さんのネットワークづくりを行っています。

10月7日(土)～9日(月)に開催した『木と森のあそび場』では、木のおもちゃや遊具が好評で、家族連れなど約2千200人が来場。併せて約200人のボランティアがお手伝いしてくれました。ボランティアの多くは、『森のサロン』などのプログラムにも参加した若いお母さん方です。ぜひ来年も開催したいですね。

100年先の森づくりを目指す『里山づくり』

——わたしは、昨年から『ふおれすと鉾山流里山づくりボランティア』『チカタビレンジャー』に参加していますが、自分たちの森をつくることができるといふことを、多くの方に知ってほしいと思っています。100年先の森づくりという壮大な計画のきっかけは、どんなことだったのでしょうか。

遠藤さん ふおれすと鉾山の周りの森が、多くの方にもっと身近に

感じてもらえたらいいねというのが里山づくりの根本にあります。ふおれすと鉾山も、モモンガくらぶも、自然の中に入って、いろいろ気付いてもらおうという自然体験プログラムを4年以上やっています。そのプログラムの基本は、やはり森。その森をより知るためには、自分たちの森が欲しいねというのと、森の整備や保全には下草の刈り取りや植樹など、長期的に取り組む必要があることから、100年先を意識した方がいいよねということ、有識者や自然愛好団体とも話し合いを重ね、今年3月、『ふおれすと鉾山流里山づくり構想』がスタートしました。



遠藤 潤さん

——『チカタビレンジャー』には、子どもから大人まで、幅広い年齢の方が参加しているのはすごいことだと思えます。これから100年後に向けて、来年または近い将来、どのように里山づくりを進めていくのでしょうか。

松原さん 100年後を見据えつつ、まずは5年後を1回目の区切りとして、里山づくりを進めています。

現在は、『チカタビレンジャー』の皆さんが、下草の刈り取りや、来年植樹する苗木の準備を行っています。木育プロジェクト全体に言えることですが、ここでもボランティアの存在は欠かせません。5年後、子どもや大人、障がいのある方など、誰もが気軽に訪れることができ、鳥や動物、昆虫も集まる、人にも生き物にも居心地のいい里山にすることが目標です。そして、森を上手に活用しながら付き合っていくことで、人の暮らしと森がつながっていることや、多様な生き物が息づいていること、森の役割などに気付いてもらえたらうれしいですね。

森の変化を多くの方に見てほしい

今回、お二人にお話を伺い、大きな計画の一端にふれることができました。

100年先も鉾山町の自然に親しむための第一歩に立ち会うことができ、幸せに思っています。まずはこれから5年なんですね。

ふおれすと鉾山の周りの森がどのように変化していくのか、わたしただけではなく、多くの方に見ていただきたいです。

そして、みんなにとって居心地のいい、ふおれすと鉾山であってほしいです。

あなたも市民リポーターになって、市内の話題やまちの動きなどをリポートしてみませんか。平成19年度市民リポーターについてのお申し込み・お問い合わせは情報推進グループ(☎065586)まで。